

例会記録

日本医史学会 4月例会

令和4年4月23日(土)
オンライン開催

1. 第32回矢数医史学賞 受賞記念講演
『『感染症と法の社会史』とコロナ禍』
西迫大祐(沖縄国際大学)
2. 「日本の発明? 母子手帳の開発の歴史」
中村安秀(日本WHO協会/
大阪大学名誉教授)

日本医史学会 6月例会

令和4年6月25日(土)
オンライン開催

1. 第34回矢数医史学賞 受賞記念講演
『『医学とキリスト教』とこれまで, これからの医学史研究』
藤本大士(日本学術振興会特別研究員PD/
京都大学大学院)
2. 第34回矢数医史学賞 受賞記念講演
『『洋学史研究事典』と医学史研究』
青木歳幸(佐賀大学地域学歴史
文化研究センター特命教授)

例会抄録

ペラグラ再考

——歴史的変遷と課題——

伊藤 泰広

18~20世紀前半にヨーロッパやアメリカ南部で深刻だったペラグラが、日本で注目されることは少ない。ペラグラ史を概観し、現代での課題に触れる。

ペラグラ(pellagra)はナイアシン欠乏によって生じる疾患で、古典的3徴のDementia(認知症), Diarrhea(下痢), Dermatitis(皮膚炎)として知られる。ナイアシン補充が奏功する反面、診断・治療の遅れはDeath(死)に至る点で4D diseaseとも言われる。ペラグラはイタリア語で、荒れた皮膚(pelle:皮膚+agra:荒れた)を意味し、ナイアシン欠乏が日光過敏性皮膚炎を誘発することに由来する。

ヨーロッパ世界がアメリカ大陸を発見し、そこからもたらされた新穀物の一つであるトウモロコシが、特に貧農の主要穀物として定着してゆく中

でペラグラは発生した。その最初の報告はスペイン医師Casalである。頸部周囲のペラグラ皮膚炎は、「カサルの首飾り」として知られる。同じ頃、北イタリア農民の間にもペラグラが蔓延し、この名称が世界的に知られるようになった。北イタリアでは挽いた穀物を水や牛乳で煮た粥(puls)で食する文化がある。それが郷土料理ポレンタ(Polenta)である。ポレンタの原材料は元来、スペルト小麦、黍、粟などだったが、栽培が容易で生産性の高いトウモロコシにやがて取って代わった。北イタリアは集約農業に適し、パンの原料の小麦は商品作物として栽培され、トウモロコシのほぼ倍の価格で取引された。トウモロコシを主食とする同地域の貧農にペラグラが蔓延し、特に若年女性の罹患率・死亡率の高さが深刻となる。イタリア医師の間でその原因究明と対策確立は重要